

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや  
ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
会長 小坂井 盛朗  
幹事 舎人 経昭  
会報・雑誌委員長 伊藤 健文

No.23

## 手を貸そう Lend a Hand

2003~2004年度 RI会長 ジョナサン・B・マジアベ

きょうの例会  
第1025回 平成16年1月20日(火)

卓話 “私の陶芸遍歴”

会員 山田 壽勝君

先週の記録  
第1024回 平成16年1月13日(火) 晴

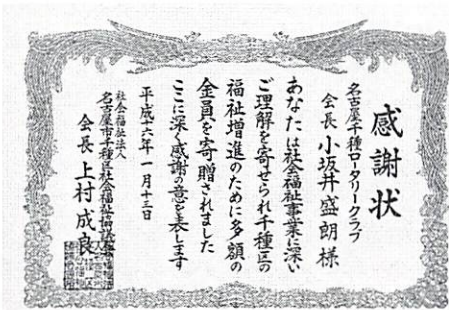
◆“君が代” “奉仕の理想”

◆斉唱 “四つのテスト”

### 千種区社会福祉協議会より感謝状授与



年末会員・家族懇親会で集まった寄付に対し、クラブへ感謝状が贈られました。



### ◆出席報告

会員	65(56)名	出席	32名
出席率	57.14%		
前々回	12月19日(修正出席率)		91.23%

### ◆ビジター紹介

名古屋錦RC	IM実行副事務局長	寺西 正君
名古屋錦RC	IM実行委員	石川まち子氏
名古屋錦RC	IM実行委員	北村 隆子氏

### ◆ゲスト紹介

千種区社会福祉協議会	会長	上村 成良様
	次長	熊沢 俊治様
	事務局長	伊藤 広一様

### 舎人幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はお残り下さい。
2. ロータリーの友・ガバナー月信が来ておりますので、お帰りにお持ち下さい。

### IM登録お礼

名古屋錦RC	IM実行副事務局長	寺西 正君
	IM実行委員	石川まち子氏
	IM実行委員	北村 隆子氏

本日は貴重なお時間を頂きまして、IMご登録のお礼と中間報告を兼ねてお邪魔致しました。

当クラブは創立8年ですが、昨年来IM実行委員会は皆様にご満足頂けるIMをと努力しており現在10クラブ722人中、486人の登録を頂いております。

何かとお忙しいとは存じますが、全員登録を目指し再度思いやりの手をお貸し頂ければ幸いです。

皆様とクラブの益々のご発展を祈念し、2月24日にお目にかかれまます事を楽しみにしております。

### 秋山茂則君退会挨拶

食道ガンの大手術をして3年もたてば元に戻ると思っておりましたが、なかなか体力が快復せず皆様とのおつきあいも難しくなりましたので退会させて頂くことになりました。創立年度からお世話になり、会長の時は笑って挨拶したりニコボックスでは大声でお願いしたりと思ひ出も尽きませんが、又元気になって戻って来たいと思っています。

## 小坂井会長挨拶

皆さん今日は、早いもので鏡開きも済み平常のお忙しい日常が始まった事と存じます。

今日は「地獄が過ぎ春来る」と云う題でお話しを致します。

「寒さと飢餓とラポーター」一冬を越す間に沢山の戦友が異国の土となりました。

私が部下を連れて満州を出る時19名中僅か4名しか生き残れず1500名いたラーゲルも400人足らなくなってしまう状態で春を迎えたある日、移動を命ぜられ山を降りる事になった。

トリムスカヤの街の一角に有刺鉄線で囲った収容所へ収容され、方々のラーゲルで生き残った連中も集められ又、1500名の人員になった。

仕事は駅に到着するワゴン（列車）に我々が切り出した材木を積む事と山からのトラックから材木を降してプラットホームに積み上げる事。

民間人に借り出されての使役等もあり散髪技術をもったAはラーゲル外に居住するソ連将校の家で家族の散髪をしてお礼にパンを抱えて来る等、食物の余裕がある様になり飢えから解放された。

それでも自分の事だけしか考えない利己主義や軍隊時代に部下に恨まれていた者はそれらの余禄にありつけなかった。ある時こんな事があった。使役に出掛けていた戦友Aが貰ってきたパンの一部を俺にくれた。三食分位の大きさだ。俺はこれを六つに割って五人の戦友に分けた。その中に他のラーゲルから来たBがいたがその様子を見ていたAがすごい剣幕で「あんただからパンをあげたのだ。皆に分けてあげるのもよいがBにやるくらいなら返してくれ」と言ってBからパンを取り上げてしまった。何でも軍隊時代に随分とAはBにイタブラれたのだそうだ。階級廃止、無警察状態が続いていると真の裸の付き合いとなる。そんな中での出来事であった。

軍隊の階級の上下や職業・社会での地位は勿論の事、年令の差も金持ちも貧乏人もない本当の人間として真の価値が大切にされたような気がする集落であった。

### ロータリー推進月間に因んで

#### 大開口ロータリー情報委員長

皆さんこんにちは、久しぶりに中央に立たせていただきます。

1月はロータリー推進月間ということで、ロータリー情報委員会として25分間話をするように指名されました。最初に幹事とプログラム委員長の連名で依頼があり、これは会長の方針であるとのことでした。本年度の小坂井会長は、全てに積極的であると共に、強いリーダーシップと独自性が感じられます。本当にご苦労様です。「あと半分」よろしく願いいたします。

千種RCの定款・細則によると、「ロータリー情報委員会、この委員会は、会員候補者にロータリークラブ会員の特典と責務に関する情報を提供し、会員にあらゆるレベルのロータリーの歴史、綱領、活動に関する

情報を提供し、入会してから1年間、新会員のオリエンテーションを監督するものとする。」とあります。いたずらに24年が過ぎただけで、とてもそのような話が出来そうにありませんし、何を話してよいのか戸惑っております。本日は感ずるままに話させていただきます。

ロータリー情報入手の手段としては、「ロータリーの友」「ガバナーズ・レター」「クラブ・ウィークリー」などが身近なものでしょう。書籍としては、「ロータリーの理想と友愛」ポール・ハリス著・米山梅吉訳「奉仕の理想—ロータリークラブのすべて」中部経済新聞など多くの本が出版されております。また、会長挨拶集を出版される方も居られます。当クラブでは2代会長の竹内真三さん「月見坂から」、8代会長の故黒須一夫さん「末森城随想」がそうです。他クラブでは、名古屋錦RCの足立さん「四季」・刈谷RCの神谷龍二さんは「ロータリーと共に・友に」と題して、最近挨拶集を出版されております。いずれも楽しく読むことが出来ます。

3大奉仕について、私見を述べさせていただきます。

「職業奉仕」この考えは、RCの金看板と言われているものです。アーサー・フレデリック・シェルドン氏が「職業奉仕」という言葉(理念)を提案しました。LCなど他の団体には見られません。職業とは、生計を立てる手段であると同時に、自利性(自分のため)と他利性(他人のため)を合わせもっております。どちらを優先させるか、どのように調和させるかが問題となります。どちらにしても、社会的に認知されなければ職業は成り立たないということでしょう。また、豊島徳三本年度ガバナーは、次のように述べています。「今こそ、A・F・シェルドン氏の原点に立ち返り、倫理観を持って自らの職業を通して社会に奉仕し、他人の為に誠意を持って尽せるようなロータリアンでありたいと念願する。」

「国際奉仕」当クラブでは、第2760地区のWCS(World Community Service)世界社会奉仕を通して、1989-90年度からフィリピンのマニラとタイのチェンマイに寄付してきました。現在は、1997-98年度(松居会長)より、NGO組織のキャン・ヘルプ・タイランドを通してクラブ独自の国際奉仕活動を行っております。昨年は20周年記念事業の一環として、タイ・サケート県のバン・ライサムシー学校に校舎を寄贈しました。また、教育プログラム(1口1万円以学生1人の1年間の学費負担)は個人でも参加でき、現在多くの会員が参加しております、今後さらに充実させてゆきたいものの一つではないでしょうか。

「社会奉仕」警察・消防への援助。ややマンネリかな・・・。

最近の世情からか休会や退会が目立つこの頃ですが、2代目会長の竹内さんが「メイクアップはメイクフレンド」と20年ほど前の会長挨拶で述べておられます。やはりロータリー活動は出席から始まるのではないのでしょうか。

取り留めのない話をさせていただきました、有難うございます。

二コボックスは次回掲載と致します。